

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 5 月 7 日	
所属部局・職	アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻・博士課程 5 回生
氏名	横塚 彩

1. 派遣国・場所 (○○国、○○地域)
イギリス、オックスフォード
2. 研究課題名 (○○の調査、および○○での実験)
Congo Research Network2018 への参加および口頭発表
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 30 年 4 月 22 日 ~ 平成 30 年 4 月 30 日 (9 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (○○大学○○研究所、○○博士/○○動物園、キュレーター、○○氏)
St. Antony's Collage University of Oxford
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
<p>コンゴ民主共和国で調査をおこなっている研究者の集う Congo Research Network で、口頭発表を行った。この国際会議は、社会学や開発学などの研究が主になっている。私のように、コンゴでフィールドワークを行っている研究者がほとんどで、非常に興味深いプログラムとなっていた。</p> <p>会議はオックスフォード大学の構成カレッジのひとつであるセントアントニーズカレッジで開催された。研究発表は2日間あり、私は2日目の“Congo's natural resources “というパネルで口頭発表をおこなった。</p> <p>印象としては、コンゴ東部の鉱物資源や紛争地域での武装勢力と国立公園など、地域の偏りがみられるような傾向はあったが、普段なかなか聞くことのできない“コンゴ東部のいま”の問題を知ることができ、今後の私自身の研究にもつながる話が聞けたことはとても有意義であったと思っている。</p> <p>また、ロンドンではロンドン大学の東洋アフリカ研究学院 (SOAS) の図書館で文献収集を行った。SOAS は私の所属するアジア・アフリカ地域研究研究科のように、地域研究に特化した教育・研究機関である。図書館の書籍や資料の所蔵数も非常に多く、ひとつの国でいくつもの書籍棚があったりと資料の多さは圧巻であった。図書館を利用する学生も非常に多く、午前中にも関わらず、図書館内に多数用意された閲覧テーブルはほぼ満席で、どの学生も真剣に資料をみたり、パソコンでの作業を行っていた。海外の大学の図書館を利用する機会が今回初めてだったので、真剣に勉強に励む学生の姿勢に、非常に刺激をうけた。</p> <p>今回の会議に参加して、コンゴ研究者との新たな繋がりや、コンゴ国内で行われている様々な研究について知ることができた。また、イギリスの2つの大学を訪問することで、そこで研究や勉強をする人々からたくさんの刺激をうけ、研究へのモチベーションがさらにアップしたように思う。英国渡航は私にとって非常に有意義であったと感じている。</p>
<平成 26 年 5 月 28 日制定版> 提出先： report@wildlife-science.org

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



Congo Research Network の様子。80 を超える発表があったため、3つの部屋で同時に開催された。



ロンドン大学東洋アフリカ研究学院正面玄関（左）と図書館

6. その他（特記事項など）